



オキちゃん劇場より水族館を望む

いよいよオープン！ 沖縄美ら海水族館

沖縄美ら海水族館は沖縄本土復帰三十周年を記念し、本島北部地域の振興拠点の役割を担う施設として、約六年間という工事期間を経て、平成十四年十一月一日にグランドオープンすることとなりました。ここで新しい施設を紹介します。

一・沖縄美ら海水族館は
世界最大級の水族館！

沖縄美ら海水族館はその建物規模だけでなく展示内容においても、他の館には真似の出来ない世界有数の水族館です。

世界でも珍しい水槽！

「サンゴの海」水槽は、その名の通りサンゴを飼育展示するのですが、この水槽は海水容量が三百トンと世界でも類をみない大きさで生きたままのサンゴを飼育展示する珍しい水槽です。その構造も工夫されており、まず屋根を付けず全天候型とし、自然光をふんだんに取り入れるようにしています。海水も沖合三百五十m、水深二十mから新鮮なものを直接汲み上げています。そして潮の干満を再現し、より自然の海に近い状況を作り出しています。展示するサンゴは五十〜六十種、約八百群体を展示します。その中でも主にミドリイシ科は本来沖縄の代表種でしたが、近年白化現象により沖縄の海ではほとんど見られなくなった種です。展示しているサンゴは主に、白化現象以前に採取し五年以上かけて水槽内で増殖、成長させたものです。そして本年六月、その「サンゴの海」で水槽内では珍しいスギノキミドリイシの産卵も見られました。



なんと早くも「サンゴの海」水槽内でサンゴが産卵

なるか世界初の水槽内繁殖！

「黒潮の海」大水槽は、幅三十五m、奥行き二十七m、水深十m、総水量七千五百トンと世界最大級(世界第二位)の大きさになります。そこで飼育される魚がジンベエザメやマンタたちです。

☆ジンベエザメについて

ジンベエザメとは、日本を含む、世界の熱帯及び温帯の高温水域に生息し、外洋にも沿岸にも回遊します。魚類最大になる種類で、最大全長十四mに達するが、通常の最大全長は十〜十二mです。

ジンベエザメの名前の由来は、体の模様が着物の「甚平羽織」(じんべ

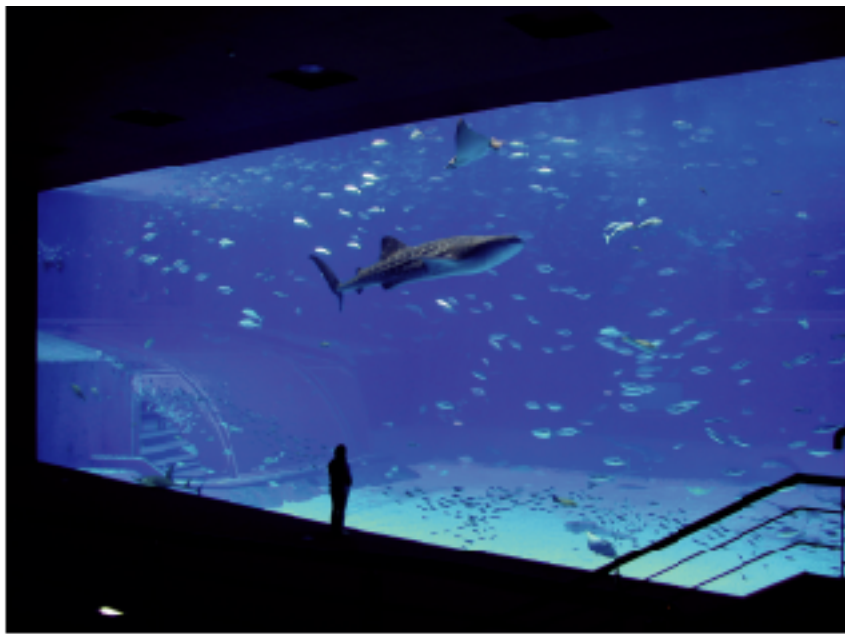


「黒潮の海」水槽ではジンベエザメが悠々と泳ぎ回る

えはおり)の模様に似ている事から付けられた、と言われています。ジンベエザメの生態(繁殖、成長、寿命等)についての研究は殆どなく、繁殖に関して台湾で保護された雌のジンベエザメ(全長約十三m)の子宮内より卵から孵化した胎児が三百尾確認されたのみとなっています。

☆オニイトマキエイ(マンタ)について

マンタとは、沖縄以南の全世界の温・熱帯海域に生息する。体の幅六m〜七m、体重二トン以上もの大きさになる世界最大のエイです。彼らをこの「黒潮の海」大水槽で複数同時に飼育し、まだ世界で行われていない水槽内繁殖を達成する事を目指しています。



世界最大の亚克力ガラスの前では人間はこの程度

世界一の亚克力ガラス

水族館最大の目玉となる「黒潮の海」大水槽の観覧部分に使用される大亚克力ガラスは、幅二十二・五m、高さ八・二m、厚さはなんと六十cm、総重量百三十トンと世界第一位の大きさ及び厚さになります。

この大亚克力ガラスは、七枚ピースに分割して搬入され現場で重合接着されました。重合接着とは、三mm位の隙間に亚克力シロップを流し込んで固めるものであり、継ぎ目はほとんど分からないため一枚ガラスとしてジンベエザメなどの大型魚類をゆっくりと鑑賞する事ができます。

未知の世界

沖縄近海にも七千mというとても深い谷、琉球海溝が存在します。その深海に住む様々な生物の中でも代表的なものの一つに深海性のサメ類(ツノザメ類、アイザメ類、トラザメ類、シロカグラザメ、フジクジラ等)があげられます。また、最近発見されたという四m以上にもなる大型のサメであるメガマウスも深海の中層に生息しています。そういった沖縄の深海生物の展示を初め、これまで生きた飼育展示が困難であったハマダイ(アカマチ)やハチビキ(チョウチンマチ)の飼育を実施し、(すでにアカマチの飼育を世界で初めて成功させている)沖縄の深海を多くの方々を知っていただくと共に海洋深層水利用を試みたり、水族館独自の新たな魅力と話題性を高めていこうと努力しています。



「深層の海」ではアカマチも泳いでいます

展示水槽一覧表

水槽名	水量(t)	主な飼育展示生物
サングの海	300	ハナヤサイサング科、ミドリイシ科、ハマサング科、ヒラフキサング科等主に礁内のサング類他
熱帯魚の海	700	ネムリブカ、オオテンジクザメ、チョウチョウウオ類、ニザダイ類等
黒潮の海	7,500	ジンベエザメ、マンタ、カツオ、マグロ類等
危険ザメの水槽	800	オオメジロザメ、イタチザメ、アカシュモクザメ等
深層の海	300	ハマダイ、ハチビキ、ツノザメ類、タカアシガニ等
タッチプール、その他	500	ウニ、ヒトデ、ナマコ、ハタンボ類等
合計	10,100	総数 650種 75,000点

二・飼育展示生物紹介

沖縄美ら海水族館では沖縄の海を浅瀬から深海まで様々な生物を飼育展示しますが、その各水槽を一覧表にして紹介します。

三・建築概要(建築・設備)

a・建築概要・構造・階数
鉄筋コンクリート造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造)
地上四階建

b・主要仕上げ
屋根Ⅱ高耐候性ステンレス鋼板葺
外壁Ⅱコンクリート打放しのうえ
フッ素樹脂塗装
床Ⅱ(外部)琉球石灰岩
(内部)タイルカーペット敷

c・主要設備

電気設備
受電総容量 六千七百KVA
常用発電機 九百八十KW

×二台

機械設備

コージェネレーションシステム
二百八十SRT及び水蓄熱
生物飼育設備
濾過装置 密閉式砂ろ過八十
×九十m/時六十二基他
合計九十六基

四・終わりに

世界最大級の水族館が出来上るまでには、いくつもの困難を乗り越えなくてはなりません。それを工事関係者、水族館職員、公園事務所職員の努力と情熱によって克服し、そして今ここに沖縄が世界に誇れる水族館として完成しました。皆様にもこの素晴らしい水族館をぜひ見ていただき「沖縄の海・出会いと発見の旅」にふれてみてはいかがでしょうか。